

4 月 18 日に本校 3 年生を対象に実施された全国学力学習状況調査の結果を返却しました。本調査は、国語・数学・英語の 3 教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されています。その調査結果を受けて、本校生徒の学力および学習状況の傾向や課題を以下のように分析しました。

総合結果(国語・数学・英語)

国語、数学、英語ともに全国平均及び京都市平均をやや上回る結果となっており、平均的な基礎基本の知識や学力が身につけていることが分かります。また、無回答率の低さも見うけられる所があり、意欲的に問題に取り組む姿勢があることがわかります。

国語 分析

国語の学習に対する意欲が全国平均に対してやや低い結果でしたが、無答率は非常に低く、問題に取り組む意欲はとても高い結果となりました。特に優れた点として、根拠を明確にして書くことは全国平均を大きく上回りました。また、文章の展開に即して情報を整理し内容を捉えること、相手にわかりやすく伝える表現について理解することの正答率が高い結果となりました。一方、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを持つこと、話し合いの方向を捉える問題については全国平均を下回りました。

数学 分析

式の計算のような一問一答形式のものはほとんど出題されず、思考過程を問われる問題が多く出題される中で、資料の活用に関して全国平均を大きく上回り、式の変形や事柄が成り立つ説明についても正答率が高い結果となりました。

図形に関する問題については、三角形の合同条件について理解が深いことがわかりましたが、証明とは逆の手順で、条件から何の図形かを導くことや、反比例の理解についてはやや課題がある結果となりました。

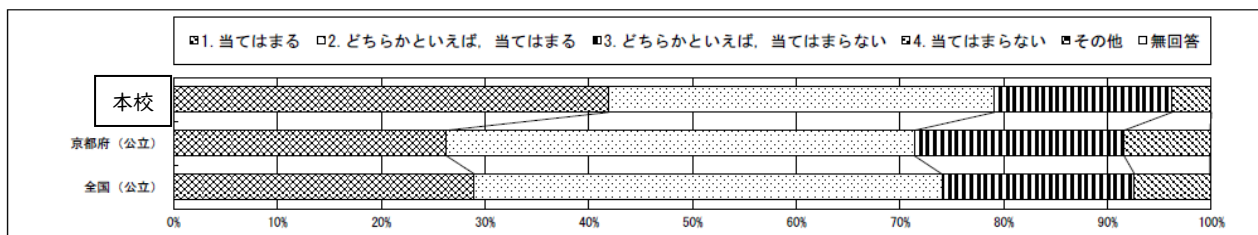
英語 分析

英語の学習への意欲が非常に高いというアンケート結果が出ています。今回は特に、全国的に回答率が低い speaking や writing での無答率が目立ち、生徒の学習への意欲が示されました。

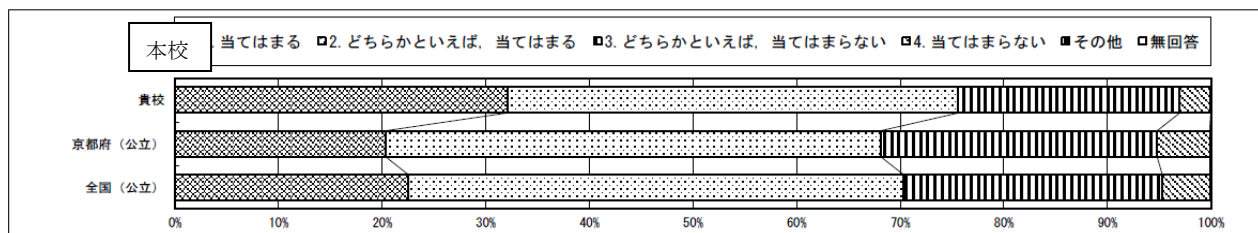
3 年生で学習する複雑な内容については解答できているのに対し、中学 1 年で学習する助詞や前置詞をうっかり間違えて答えてしまうケースが多くみられました。また、単語数指定の中でまとまりのある文章を書くことについては全国と同様の課題が見られました。

生徒質問紙調査から①

Q 自分には、よいところがあると思いますか。

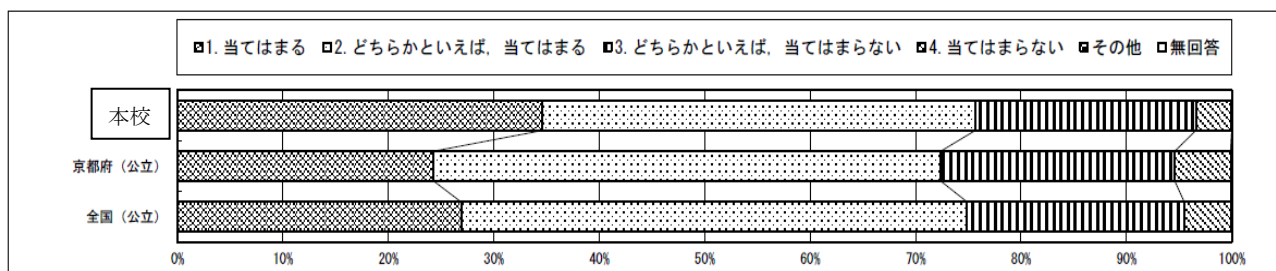


Q 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。

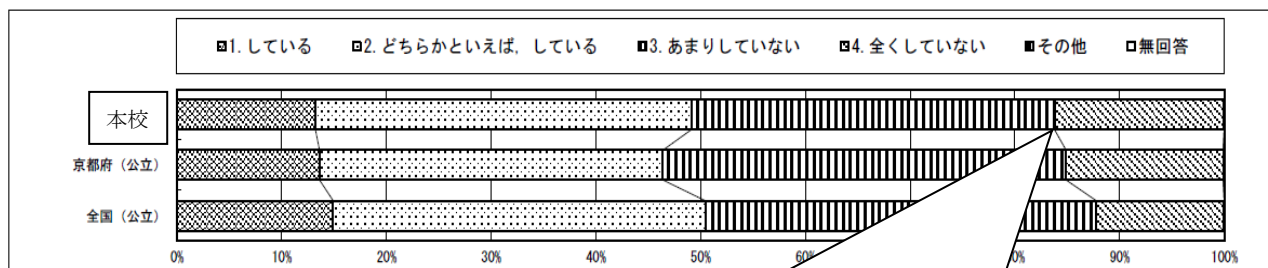


生徒質問紙調査から②

Q 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか。



Q 家で自分で計画をたてて勉強していますか。



している、どちらかといえばしている、に注目するのではなく、「あまりしていない」や「全くしていない」と回答する層が多いことが課題とされます。

与えられることについては意欲的に取り組むことができるけれど、学習面では学校や塾に頼りきりになってしまい、自分で計画をたてて勉強することには半数以上の生徒に課題がある状態です。将来への目標を持つ生徒も多い中で、主体的に意欲を持って学習に取り組むことができれば、さらに学力や、考える力、捉える力が伸びると思われます。

全体を通した本校の成果と課題

これまで国語A・B、数学A・Bとして出題されていた問題(A:基礎的な学力、B:生活の中での学力を問うものだった)が大きく変化し、全て生活の中などの状況に合わせて総合的に教科の力が発揮されるかどうかを問われる問題になりました。学力についての考えが大きく更新されていく中、今後、大学や高校入試の形態も変化することについてはご存じの通りかと思います。

アンケート結果からは基本的生活習慣が定着しており、規範意識が非常に高く、自己有用感だけでなく、社会へ貢献する気持ちもとても高い結果となっております。今後も基礎的・基本的な内容をおろそかにせず、主体的に何事にも取り組む姿勢を一層培うことができれば、大幅な成長が期待できます。

学校としても各授業の在り方が求められているところです。本年度の本校は、『言語能力の育成・言語活動の充実』・『「温かな心」「たくましさ」を兼ね備えた生徒の育成』を学校教育目標に、これまでに引き続き、基礎・基本の反復学習、主体的・対話的で深い学びのための学習の推進、学校図書館活用授業、道徳・総合的な学習の時間、人権学習を通して心の教育の充実など一層の工夫をした取り組みを継続・発展させていきたいと考え、日常の取り組みの工夫と授業改善に取り組んでいきたいと思います。

